

平成27年度 第2回 成田市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成27年10月20日(火)  
開会：午後2時00分 閉会：午後2時55分
- 2 場 所 成田市役所6階 中会議室
- 3 出席者 成田市長 小 泉 一 成  
成田市教育委員会  
教 育 長 関 川 義 雄  
教育長職務代理者 小 川 新太郎  
委 員 高 木 久美子  
委 員 福 田 理 絵  
委 員 佐 藤 勲

(事務局関係)

市長部局

企画政策部長	根 本 欣 治
企画政策課長	高 橋 康 久
企画政策課長補佐	椿 一 之
企画政策課企画調整係長	金 光 公 太
企画政策課企画調整係	高 橋 みずき

教育委員会事務局

教育総務部長	伊 藤 和 信
生涯学習部長	藤 崎 祐 司
教育総務課長	鬼 澤 正 春
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	江 邨 一 男
教育指導課長	大 竹 誠 司
学校給食センター所長	後 藤 文 郎
生涯学習課長	秋 山 雅 和
生涯スポーツ課長	大 矢 知 良

公民館長	小川 浩
図書館長兼視聴覚サービスセンター所長	
	須賀澤 賢 治
生涯学習課副参事	木川 邦 夫
教育総務課課長補佐	鈴木 浩 和
教育総務課計画調整係長	窪田 靖 史
教育総務課計画調整係	弘海 哲 史

傍聴人：1人

#### 4 議 題

- (1) 成田市教育大綱（素案）について
- (2) 学力状況調査報告について
- (3) その他

#### 5 会議概要

##### ○ 開会

伊藤教育総務部長：ただ今から、第2回成田市総合教育会議を始めさせていただきます。私は成田市教育委員会教育総務部長の伊藤です。本日の会議の議事進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、本会議は法の定めるところによりまして、原則公開とさせていただいておりますので、ご了承いただきたいと思います。本日は傍聴の方が入室しておりますのでご承知おきいただきたいと思います。

##### ○ 市長あいさつ

伊藤教育総務部長：それでははじめに、小泉市長より、ご挨拶をお願いいたします。

小泉市長：皆様、こんにちは。本日は、公私ともにお忙しい中、第2回目となる総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、各委員の皆様方には、

平素から本市の教育や文化などの充実発展のために、多大なるご尽力を賜わっていただきますことに、厚く御礼を申し上げます。

先日、市内の小学校で運動会が開催されて、私も何校か見させていただいたのですが、児童が元気よく、規則正しく、礼儀正しく、きちんと行動している姿に大変心を打たれました。また、中台小学校ではマーチングパレードを見させていただいたのですが、とても素晴らしいマーチングパレードで、多くの市民の方にも見ていただきましたと思いました。

さて、第1回目の会議では、教育に関する大綱の考え方について協議していただくとともに、本市の教育に対する思いについて、各委員の皆さまからご意見をお伺いしました。私からも、郷土成田と国を愛し社会に貢献する気持ちを持った人材育成、経済的な困難を抱えている児童生徒への支援、高齢化社会にあたり健康を維持するためのスポーツ振興など、教育に対するご意見を述べさせていただきました。委員の皆さまのご意見と共通する部分が多くあると再認識したところです。

本日は、教育に関する大綱の素案をお示しするとともに、大綱のキャッチフレーズと一緒に協議してまいりたいと考えております。皆さま方の忌憚のないご意見をいただき、有意義な会議にしたいと思っておりますので、ご協力をお願い申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## ○ 教育委員長あいさつ

伊藤教育総務部長：続きまして、教育委員会を代表いたしまして、関川教育長より、ご挨拶をお願いいたします。

関川教育長：本日、第2回目となる総合教育会議が開かれることを大変嬉しく思います。

議題としては、教育の根幹をなす目標となる、大綱の素案を提出させていただきましたので、これについて議論をしていきたいと考えています。

併せて、学力についても成田市の現状についてご報告をさせていただきます。

また、残念なことではありますが、本日の新聞を見ますと、児童買春や個人情報流出など教職員の不祥事が出ていました。

我々はいつも緊張感を持って、教職員一丸となって取り組んでいるのですが、成田市においてもこのような不祥事がないように、これからも常に気を引き締めていきたいと考えています。

ところで、先日、スポーツフェスティバルが行われ、そこで私が一番感動したのは、「8の字跳び」での豊住小学校の活躍でした。これは、学校の先生2人が長縄を回して、子ども達が連続して跳んでいく競技ですが、豊住小学校は3分間で340回を超える素晴らしい結果を出しました。これも教育の力の一つではないかと思います。一生懸命やれば、それだけの成果が出るというのを目の当たりにし、大変感銘を受けました。

また、先ほど小泉市長とも話をさせていただきましたが、遠山中学校の芹川史枝奈さんが、「中学生の主張」で千葉県最優秀賞を受賞しました。芹川さんは陸上800mでも千葉県で優勝し、この夏には全国大会にも出場しています。そのように様々な分野で活躍できる人を成田市から輩出していきたいと考えています。

本日は、小泉市長や教育委員の皆様とともに忌憚のない意見交換ができることを期待して、私からの挨拶とさせていただきます。

伊藤教育総務部長：ありがとうございました。

それでは、議題に入りますが、要綱第4条1項により、小泉市長が議長となります。また、要綱第4条の2項により、「議事の進行は、議長が指名する職員に行わせることができる」となっていますが、市長いかがいたしましょうか。

小泉市長：それでは、引き続き議事進行を伊藤教育総務部長にお願いします。

伊藤教育総務部長：はい、それでは、議長よりご指名をいただきましたので、引き続き会議の進行を務めさせていただきます。

#### ○ 議題1 成田市総合教育会議の設置・運営について

伊藤教育総務部長：まず、議題（1）の成田市教育大綱（素案）について、事務局から説明をお願いします。

鬼澤教育総務課長：教育総務部教育総務課長の鬼澤と申します。よろしくお願いたします。

それでは、議題（1）成田市教育大綱（素案）についてご説明いたします。

お手元に配付してあります「成田市教育大綱（素案）」をご覧ください。

大綱の名前はシンプルに「成田市教育大綱」とし、その下に市民へのメッセージ的なものとしてキャッチフレーズを入れたいと考えております。

キャッチフレーズについては、後程、説明をさせていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

まず、1の大綱の位置付けですが、第1回成田市総合教育会議において、大綱の考え方といたしましては、今年度に策定する「成田市学校教育振興基本計画」を位置づけるとともに、市の生涯学習分野の基本計画である「成田市生涯学習推進計画」もあわせて大綱として位置づけることについて、ご承認いただいたところであります。中央に関連図を掲載しておりますが、各計画の名称の下には各計画の理念を付け加えております。

2番目の大綱策定の趣旨です。

大綱は、本市の教育が目指す基本的な方向性を示すとともに、生涯を通じて学ぶことができるまちづくりを目指し、教育の振興に関する施策の大綱を策定しようとするものであります。

次に2ページをご覧ください。3番目、大綱の基本目標となります。

現在策定中の「成田市学校教育振興基本計画」及び「生涯学習推進計画」に基づいた、7つの目標を立て、大綱の具現化を図るものです。

基本目標の(1)は、「社会を生き抜く力を育む」です。

社会が大きく変化する中で、社会を生き抜く力を育むために、特色ある学校づくりや、基礎学力を重視した学習指導を充実させ、子どもたちに自ら積極的に学び続ける態度を育成します。また、幼児期からの子どもの健康、体力づくりの充実や小学校への円滑な接続に向けた就学前教育の充実を図ります。

次に、基本目標(2)は「伝統・文化の理解と国際性を育む」です。

地域の伝統、文化や歴史について子どもたちの理解を深めながら豊かな語学力の育成と、グローバル化に対応できる資質の育成を図り、コミュニケーション能力の向上のための英語教育の充実を図ります。

次に、基本目標(3)は「豊かな心・道徳性・規範意識を育む」です。

「心を育む教育や道徳教育」、あるいは思いやりの心や礼儀、ルールを教えることについては、家庭、地域と連携した取り組みを推進してまいります。また、郷土成田を愛する気持ちを育み、社会に貢献できる気持ちを持った人材の育成に努めるとともに、子どもたちが豊かな感性を育むことができるよう、読書活動や自然体験活動などの取り組みを充実します。

次に3ページをご覧ください。

基本目標（4）は「よりよい学校教育環境づくりを進める」です。

小中一貫教育の取り組みや学校適正化などを通じて、よりよい学校環境づくりを推進し、また、教育委員会と学校が互いに協力し、教職員の多忙化防止の取り組みを推進します。さらには、教職員が各段階を通じて資質向上が図ることができる研修やニーズに対応した研修の充実を図ります。

次に、基本目標（5）は「様々な困難を抱えた子どもたちへの支援を充実する」です。

生活困窮等の状態にある児童・生徒の学習機会の充実のため「学びのセーフティネット」の構築を図ります。また、発達障害などの特別な支援を必要とする子どもたち一人ひとりのニーズに応じた多様な学びの場の充実を図り、さらには、本市の特徴から、増加が予想される外国籍などの子どもたちへの支援やいじめ、不登校の児童生徒や保護者への支援体制の充実など、様々な困難を抱えた子どもたちが安心して学ぶ学校環境の整備を推進します。

次に、基本目標（6）は「社会の変化に対応した教育を推進する」です。

社会の変化に対応した教育を推進していくためには、情報教育やキャリア教育などの充実を図るとともに、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力を育むことができるよう、学校、家庭、地域が連携して一体となったコミュニティの形成に向けた学習環境、協働体制の整備を推進します。

次に、4ページをご覧ください。

基本目標（7）は「生涯を通じた学習やスポーツに親しむ環境を推進する」です。

生きがいを持って豊かで充実した人生を送るため、生涯にわたる学習を支え、学習

成果を活かせるまちづくりを目指すとともに、市内の高校や大学などとの連携により、文化芸術活動などの展開を図ります。また、誰もが生涯を通じてスポーツに親しみ、健康で豊かな生活ができるよう、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

以上が「成田市教育大綱（素案）」についての説明となりますが、別添A3横の資料「第1回総合教育会議に対する意見と成田市教育大綱（素案）との対応」では、第1回総合教育会議において、皆さまから本市教育に対する思いを述べていただきましたが、その発言内容と大綱との関連を表として取りまとめました。7つの基本目標に対する各委員の発言について、どの目標部分に対応しているかを示させていただいておりますので、参考までにご覧いただきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

伊藤教育総務部長：ただいま、事務局から成田市教育大綱素案について説明がございました。

ご質問、ご意見があればお願いいたします。

佐藤委員：何度か学校訪問をさせていただいた中で、成田市の英語教育の充実については素晴らしいものがあると感じました。小学校6年生の授業でも、私自身が一緒に受けたいという気持ちを抱かせるものでありました。

今の段階でも、とても素晴らしい英語教育をされているが、さらにそれを進めていくべきだと感じました。

また、障がいを持つ子などの社会的弱者に対するきめ細かな対応についても、さらなる充実を望みます。

伊藤教育総務部長：他にご意見がないようでしたら、次に教育大綱のキャッチフレーズについて、事務局より説明を願います。

鬼澤教育総務課長：それでは、引き続き、大綱に係るキャッチフレーズについてご説明いたします。資料3「成田市教育大綱」のキャッチフレーズ（案）をご覧ください。

このキャッチフレーズにつきましては、予め教育委員の皆様から提案していただいた中から、市長や教育委員会内での意見等を踏まえ、事務局側で3つに絞らせていた

いただきました。

キャッチフレーズと提案していただいた方の思いを説明いたします。

まず、案1ですが「育てよう 心とからだ 学び合い みんなで描く ふるさと成田」です。

このフレーズの思いといたしましては、知識や技能だけを学ぶのではなく、人として大切な心を育て、健康で明るい人づくりを目指すことで、誇れる故郷を作り上げていきたい、というものです。

次に、案2ですが「人が育ち街をつくり 未来をきづく 成田の学び」です。

このフレーズの思いといたしましては、成田の大切な財産である子供一人ひとりが、健やかにそして豊かな心持ちを持った人として成長し、社会を支える人となり、コミュニティを作り、ひいてはみんなで未来を築いていくための人づくり、街づくりを実現させたい、というものです。

続いて、案3ですが「成田で学び 世界にはばたく オール成田で人づくり」です。

このフレーズの思いといたしましては、成田の学習で実力をつけ、グローバル社会で活躍できる人材を、行政、学校、地域、家庭みんなが関わり育てていきたい、というものです。

以上の3つが案となりますが、この中から、1つを決めていただき、大綱の表紙に掲載させていただきたいと思います。また、キャッチフレーズに込める思いなども、市民へのメッセージとして併せて掲載できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

伊藤教育総務部長：ただいま、事務局からキャッチフレーズについて説明がございました。ご質問、ご意見があればお願いいたします。

佐藤委員：案3の「オール成田で人づくり」というのが私の案を取り入れていただいたところ  
です。最初は「成田をあげて人づくり」というのを考えていたのですが、ラグビーを  
観ていると「オールジャパン」という言葉が出ておまして、それで「オール成田」  
が良いのではないかと考えました。国際都市成田らしさを出すために、成田を横文字

(NARITA) にしても良いと思います。

小川教育長職務代理者：最初にキャッチフレーズを考えて欲しいと言われた際に、一番難しいと感じたのは、生涯学習の分野をどのようにキャッチフレーズの中に入れていくかということでした。私の考えとしては生涯学習の内容も含まれているものが良いと思います。

関川教育長：小川教育長職務代理者と同じく、大綱なので、幅広く通じるものが良いと思います。私は案1の「学び合い」は生涯学習での学びも含まれ、「みんなで描く ふるさと成田」は、子どもも大人も、皆で成田をつくるというのが含まれていると思います。

福田委員：案1については、「学びあい」までは良いのだが、「ふるさと成田」という部分が、成田市のキャッチフレーズのように、教育から離れてしまうように感じました。また、案3については、「オール成田で人づくり」の「オール成田」を「チーム成田」に替えても良いのかなと思います。個人的には案2の「成田の学び」という言葉は好きなので、組み替えたなら良いものができるかもしれません。

高木委員：たしかに、市のキャッチフレーズのようにになってしまうかも知れませんが、人を育てていくことは、成田市をつくっていくことに繋がるのではないかと思います。私は案2を出したのですが、いかに成田が子ども達を財産として育てていくのかが大切なので、大綱についても、教育が成田を支え、つくっていくという思いがあっても良いかと思っています。

伊藤教育総務部長：意見が3つに分かれてしまいました。小泉市長いかがでしょうか。

小泉市長：各委員の意見を聞くとそれぞれに納得してしまうのですが、基本的には大綱ということで、大きな視点で生涯学習も含めたものになるのが望ましいと思います。まずは、文言の入れ替えについて話し合っていた後、無記名投票をしていただくのはいかがでしょうか。

伊藤教育総務部長：それでは、文言の組み合わせ等でご意見があればお願いします。

小川教育長職務代理者：教育大綱ということですが、教育というのは「教える」ということ  
です。対象は何かというと、それは人です。そのため、「人を育てる」というのが大綱  
の根本になるのではないのでしょうか。私としては、成田市の教育というのは「人づく  
り」だということを明確に示せるようなキャッチフレーズが良いと思います。

伊藤教育総務部長：そうしましたら、投票により、基本となる案を選ばせていただきたいと思  
います。只今、投票の準備をしておりますので、先に議題（２）を行い、その後に投  
票を行いたいと思います。

## ○ 議題２ 学力状況調査報告について

伊藤教育総務部長：それでは、議題の（２）学力状況調査報告について、担当課長から説明を  
願います。

大竹教育指導課長：教育指導課の大竹と申します。私からは、全国学力・学習状況調査の結果  
についてご報告をさせていただきます。

まず、この調査の概要ですが、調査実施日は平成２７年４月２１日で、対象は小学  
６年生及び中学３年生の悉皆調査となっています。

また、本年度は例年実施している国語と算数・数学に加えて、理科が実施されたた  
め、３教科となっています。加えて、質問紙調査として学習習慣や生活習慣等の調査  
も行われています。

本調査の出題内容は、それぞれ前学年までに学習した内容を基に出題されています。  
文部科学省は、「本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一  
部分であり、この結果のみをもって「学力が高い・低い」と言い切ることはできない。」  
としています。

また、調査対象の児童生徒は毎年異なります。出題内容も毎年更新されていますの  
で、前年度と今年度の正答率を単純に比較して「上がった・下がった」とは言えない  
ものとなります。

本市の調査結果につきましては、配付した資料をご覧ください。

まず、小学校についてですが、今年度の結果では、どの教科も成田市の平均が千葉県や全国の平均を上回っています。特に理科につきましては、全国平均を5ポイント近く上回っています。

一方、中学校については、残念ながら、どの教科も千葉県や全国の平均を若干下回っています。特に数学のB、理科については、やや差が大きくなっています。

裏面については、質問紙調査の結果から学習習慣等に関係するデータを中心に抜粋しています。

家庭で学校の予習・復習をしている率は、小中とも全国の平均を上回っています。特に小学校では、国語・算数・理科の3教科とも「好きだ」と回答した率が全国をかなり上回っています。この点から、各教科への興味・関心が成績にも一定程度反映されたのではないかと考えています。中学校でも「好きだ」と回答している科目もあるのですが、成績に反映されていないのが課題だと考えています。

もう一つ、中学校では、「平日にテレビゲーム等で2時間以上ゲームをしている」率が、全国平均を5.4ポイント上回っています。この項目は、昨年も6.4ポイント上回っており、課題の一つであると考えています。

今回お示したデータについては、市内小中学校の平均値となっています。学校ごとに見ていきますと、安定して高い正答率を維持している学校もあります。それらの学校に共通していることは、学習規律や学習習慣の確立が図られていることだと感じています。

昨年度も実施をしましたが、今年度も、学力向上に成果をあげている学校の実践事例を取材し、各小中学校で共有できるようなリーフレットの作成を進めていきます。

正答率が伸び悩んでいる学校の中には、日本語を習得できていない外国籍の子どもや、特別な支援を要する子どもへの指導、または不登校や問題行動などへの対応に追われている状況が見受けられますので、そのような学校に対して、どのようなサポートをしていけるのかを考えていく必要があります。

なお、結果についてですが、市全体の平均正答率等をまとめて、単純に数値だけを示すのではなく、グラフや「課題となっている点」や「良く定着している点」などを

紹介しながら、各家庭にリーフレットを配付するとともにホームページに掲載していきたいと考えています。

学校ごとに調査結果を分析して、自校の取り組みに生かして欲しいということは、校長会議を通じてお願いしているのですが、教育委員会としても、「教える側の教員の指導力の向上」や「学習規律の徹底」ということが大きなポイントになると思いますので、教育指導課の指導主事による学校訪問等を通じてサポートしていけたらと考えています。また、学務課では「少人数教育推進教員」の派遣も行っておりますので、さらに有効な活用について、学校に働きかけていきたいと考えています。

伊藤教育総務部長：ただいま、教育指導課長から学力状況調査報告について説明がございました。ご質問、ご意見があればお願いいたします。

小川教育長職務代理者：この全国学力・学習状況調査の結果を見ると、全国平均より高い・低いは一目瞭然なのだが、先ほど説明があったように、それだけでは判断できないと思います。私も学校訪問等でたくさんの学校を訪問しましたが、やはり、小さい学校では1人や2人の影響を受けやすい。また、成田市では外国籍の子どもも多いので、その点を考えるとどうなのかと思います。しかし、私が言いたいことは、そのようなことではなくて、「学力は教師の力で上がる」ということです。私も教員生活を37年やってきましたが、ある先生が授業をやると偏差値が10上がるのを見てきました。その先生は、どの学校に行っても10上がるのです。授業が楽しければ、興味を持って勉強するようになります。楽しい授業を作っていくのは教師なので、教師の力をどうやってつけていくのかが、学力向上の一番のポイントではないかと思います。

一生懸命やっている先生でも、正しいやり方をせずに、ただ頑張っているだけでは成果は出ない。正しいやり方、どうしたら子ども達が勉強を好きになって、学力が上がるのか、というのを教育委員会と学校とが連携をしながら、もっと真剣に考えていかなければならないと思います。

佐藤委員：この全国学力・学習状況調査の結果については、各学校において、今後に向けた発奮材料とするには良いとは思いますが、点数で各学校の良し悪しを論じるのはどうな

のかと思います。また、点数が低い学校を訪問した時でも、先生はきちんと授業に取り組んでいましたので、点数だけで判断するのは得策ではないと感じます。ただし、小学校の点数が高く中学校の点数が低くなっている点については注意をしなければいけないと思います。小学校の場合には、授業はしっかりしているのですが、もしかしたら、授業で完結してしまって、自分で勉強するまでにいたっていないのかもしれない。中学校では自分で勉強することが必要となるので、点数が低くなっているのではないのでしょうか。良い先生であっても、子ども達が自ら進んで勉強をするまでを考えて、授業を進めていただけたら良いのではないかと思います。

### ○ キャッチフレーズについて（続き）

伊藤教育総務部長：それでは、先ほどのキャッチフレーズについて、投票をさせていただきたいと思います。今お配りしている投票用紙に記載されている3つの案の1つに丸を付けて投票いただきたいと思います。

#### （投票と集計）

伊藤教育総務部長：それでは、結果を発表させていただきます。各案とも2票ずつとなりました。

佐藤委員：私どもは案を出した当事者でもあるので、なかなか決めるのは難しいのではないのでしょうか。事務局で考えていただくのが良いと思います。

藤崎生涯学習部長：先達て、教育委員会議でこの話が出た際に、事務局で投票をしているので、それを参考にしたらどうですか。

伊藤教育総務部長：教育委員会議の後、若干文言の調整をしていますが、事務局で投票をした際には、案1の「育てよう 心とからだ 学び合い みんなで描く ふるさと成田」が1位でした。それでは、ご意見をいただきましたので、案1を基本とさせていただいてもよろしいでしょうか。

伊藤教育総務部長：それでは、案1を基本といたしまして、今一度ご意見をいただければと思います。

小川教育長職務代理者：案1の考え方の部分で、「知識や技能だけでなく・・・」の「だけでなく」という箇所ですが、「人として大切な心」や「健康で明るい人」も全て同列になると思いますので、文言を変えた方が良いと思います。

小泉市長：最後の「ふるさと成田」ですが、できれば未来志向でいきたいと考えていますので、案2にあるような「成田の未来」のような文言が良いのではないのでしょうか。

佐藤委員：私も、皆で成田の未来を描こうとする方が良いと思います。「ふるさと成田」ですと、何か観光プロモーションのように感じます。

小川教育長職務代理者：最後に「未来」という言葉を入れて締めるということで良いのではないのでしょうか。

伊藤教育総務部長：「未来の成田」と「成田の未来」では、どちらが良いのでしょうか。

小川教育長職務代理者：「成田の未来」の方が良いと思います。

関川教育長：「みんなで描く」は「みんなできずく」に替えるのはどうでしょうか。

小泉市長：その方が良いと思います。

佐藤委員：「きずく」は間違えないように漢字にした方が良いと思います。

小川教育長職務代理者：良いものが出来たのではないのでしょうか。

伊藤教育総務部長：それでは、「育てよう 心とからだ 学び合い みんなで築く 成田の未来」で最終決定ということによろしいのでしょうか。

伊藤教育総務部長：有り難うございました。このキャッチフレーズを大綱の表紙につけさせていただきます。

小泉市長：先ほど、小川教育長職務代理者が言われた、考え方の部分も反映していただくようお願いいたします。

伊藤教育総務部長：了解しました。それでは、議題（１）の大綱（素案）につきましては、キャッチフレーズも含めまして、次回の総合教育会議で再度お示しをさせていただきたいと思っております。

### ○ 議題３ その他

伊藤教育総務部長：次に議題３の「その他」ですが、事務局より何かありますか。

鬼澤教育総務課長：特にありません。

伊藤教育総務部長：それでは、最後に小泉市長より一言お願いいたします。

小泉市長：委員の皆様、有り難うございました。教育大綱のキャッチフレーズにつきましては、委員の皆様が知恵をしばって様々な考えを述べていただいたことにより、良いものになったかと思っております。また、このキャッチフレーズに基づき、教育大綱では本市の教育のあり方を定め、それを具現化するための手立てを教育委員会と市とで連携をしながら推進していければと考えています。次回は、本日のご意見を踏まえて修正し、完成した教育大綱について報告をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠に有り難うございました。

伊藤教育総務部長：小泉市長ありがとうございます。本日の総合教育会議はこれを持ちまして終了とさせていただきます。次回の総合教育会議は年度末の３月頃を予定しております。日程等が決まり次第ご連絡をさせていただきます。本日はありがとうございます。

### ○ 閉会